



沖  
波  
戦  
国  
行  
動  
圖  
表

1776

沖波准士官以上名簿

艦長 大佐 牧野 且 18.12.10 ~ 19.12.10

下關掃海支部長

砲術長(先) 大尉 島村 憲吉 18.12.10 ~ 19.12.31

高知縣安藝郡室戸町

水雷長 大尉 宮田 敬助 18.12.10 ~ 19.7.1

群馬縣利根郡川場村中野

航海長 大尉 清水 常喜 19.7.1 ~ 19.12.23

20.2.15 マニラ陸戦隊第一大隊長戦死

航海長 大尉 青柳 助 18.12.10 ~ 19.2.15

19.12.11 號輪送艦先任レイテ輸送着岸不明

通信士 中尉 薄 繁蔵 19.1.10 ~ 19.9.9

九號輸送艦セニ 廣島縣矢野町宮下

軍醫長 大尉 森田 滿壽治 19.1.1 ~ 19.12.15

福岡縣宗像郡河東村大字河東

主計長 中尉 岡田 正次 18.12.1 ~ 19.2.2

マニラ二中一小隊長 20.2.20 戦死

主計長 大尉 平國 端 19.2.1 ~ 19.9.1

丁型ニ轉勤

一〇二部員 宮崎縣東諸縣郡高岡町高 毛利規矩男 方平國林男

機曹長	兵曹長	兵曹長	兵曹長	中尉	中尉	中尉	少尉	機曹長	拳機長	拳機長	機關長	主	
沖野正義	石塚賢吉	近江林	吉田義雄	高橋森助	伊藤興作	北村與之助			橋本善作	菅原吉郎	中村精太郎	松本隆芳	
18 12 10 19 12 31	18 12 10 19 12 23	18 12 10 19 12 23	18 12 10 19 12 23	18 12 10 19 12 10	18 12 10 19 12 31	18 12 10 19 12 31		18 12 10 19 11 13	18 12 10 19 12 30	18 12 10 19 12 27	18 12 10 19 11 13	19 9 19 12 25	
クラーク派遣北非空部隊	マニラ市街戦不戦退却	頃戦死	マニラ部隊二大指揮小隊長20.20	比島收容所	コレヒドル部隊戦死	コレヒドル部隊20.2.10頃戦死	コレヒドル部隊戦死	比島殘留20.6.20チンガラン湾北上	マニラ被弾戦死	出成功、富山縣東、波郡油月村代	01.5九號輸送艦ニ便乗マニラ脱	02.13火傷殘務整理員指揮官トシテ	マニラ戦死
												コレヒドル部隊主計長20.2.10頃戦死	

沖波行動戦闘概要

12 10 18年  
12 12

就役舞鶴出港、第一艦隊第十一水雷戦隊  
柱島着

19年2月下旬迄瀬戸内海ニ於テ訓練待機

山城護衛、沖波外a三隻

柱島横須賀間、任務完遂

雲鷹救援ノ爲父島海面ニ向ケ柱島發艦衛衛部隊、高雄以下十五隻

有明(?)敵△一隻撃沈、横須賀入港、任務完遂

192月中旬2F・28d・31dgニ編入 (区岸波、沖波、朝霜、長波)

司令大佐 福岡 徳次郎

之ヨリ 31dg 5月上旬迄單隊護衛輸送ニ従事、艦隊合同ノ機ヲ待ス

安藝丸船團(サイパン、テニヤン、大官島緊急増強ノ爲ノ滿洲

ヨリ移動兵力陸軍高速船)護衛宇品發、下關海峡、九州西岸南

24?  
8

6 29 31 28  
2 19-1 12 12

下大官島方面ニ向フ<sup>28</sup>二〇〇〇頃朝霧反航ノ敵△發見同航  
態勢トナシ二四〇〇米ニテ照射砲撃發射彈數十五發、命中

彈二發(司令塔直下船体一發 前部一發)

朝霧艦長 杉原少佐 砲術長 67期 安藤文彦大尉

同夜撃沈後數時間ニ亙リ敵△僚艦盛ニ呼出シセルモ遂ニ應答ノ  
電話ヲ聞カズ、然レドモ船團ハ九州南ヨリ終始敵△ノ追跡ヲ受

ケアリシコト確實ニシテ翌<sup>1830</sup>3-1頃突如敵△ノ攻撃ヲ受ケ一番船

安藝丸一本二番船崎戸丸二本魚雷命中、敵△側ニアリシ朝霧ハ  
左斜前ノ射點ヲ發見直ニ攻撃ニ轉ジ爆雷十數個ヲ以テ見事撃沈

朝霧水雷長 68期 故水野通太郎少佐

崎戸丸火災約五時間ニシテ沈没、岸波朝霧ハ現場ニ残り救助、

他ハ沖波艦長指揮大官島及「サイパン」着揚搭完了、揚搭兵力

約一萬、途中沖波ハ敵△探知爆雷攻撃セルモ效果不明 悲境ニ

立チシ船團ヲ立直シ爾後執拗ナル敵艦ノ追撃ヲ排シ任務完遂セ

29 20 18 15 6 4  
 3 3 3 3 3 3

シハ基地航空部隊ノ中心ナル由力ト沖波艦長ノ職務員到サト勇

目ニ至ラズメテ大ナリ

大東亞戦争ヲ輸送ノ成果上ラズ陸海軍共ニ作戦ニ廻テ来シ是

ニ直接敗因ノ一ヲ形成セルヲ惟ハバ輸送要路完遂ノ要レタル功

績ノ偉大サヲ痛感スルモノナリ

サイパン

サイパン登一大宮島經由、新興丸、安藤丸船團輸送

横須賀着任務完遂

館山經由トラツク島ニ向ケ横須賀發、山陽丸船團輸送

トラツク着、硫黄島陸政陸政ノ熱心ナル協力ヲ受テ任務完遂

34 頃日没後24ノ勝導ニ依リ作△燃費政取效果不明

1990 及爆彈庫重油タンク等及船団燃費1000ノ燃費對空

戦局、戦果ナレ 1930 メレヨンニ向ケ山陽丸輸送行出港環礁出口ニ於

ア被爆被害ナシ、朝霧ハ4Fノボナヘ墜落機送トイフ無謀計畫ニ

依リ墜落、メレヨン島敵機動部隊來襲ノ算大トノ報ニ依リ4Fノ

命ニ依リ「トラフク」ニ引返ヘシツツアリシ處「トラフク」島空

襲ノ報ニ依リ沖波艦長ノ意見具申採用セラレ「サイパン」ニ向

フ「メレヨン島」敵機動部隊ノ攻撃ヲ受ク

3-4 サイパン着 襲撃完遂

以後月上旬迄「サイパン」「タラカン」「バリツク」間

油糧船團ノ襲撃、剣崎、雄鳳丸、玄洋丸等約七隻ノ襲撃三回ニ

及ブ、任務完遂 5月玄洋丸「バリツク」港口掃海水道ニ

テ敵艦ノ敷設磁気磁管ニ依リ損傷ヲ受ケタル他任務完遂

玄洋丸指揮官 宮田大佐ニテ應急處置ハ流石ニ見事ナリ

23-4 「パラオ」北方海面ニ於テ敵艦探知爆撃攻撃ニ依リ逐沈、探知

深信兩方ニテ確實ニ敵艦捕捉四回ニ亙リ爆撃攻撃、三回以後ス

クリュー音ナシ、三回後射直前迄完全捕捉

15 14 12 10 上旬 旬  
5 5 5 6 5 5

沖波艦長 大佐 牧野 巨 水雷長 69期 宮田敬助大尉  
水測長 上曹 (編領) 佐藤三郎

雄鳳丸船団ヲ護衛「バリックババン」發「タウイタウイ」着  
任務完遂(三日航程)始メテ艦隊及水雷戰隊司令部ト合同

「タウイタウイ」着泊地ニ於テ特設訓練「あ」艦部隊

能代護衛「タウイタウイ」發

ダバオ着

「ダバオ」發「タウイタウイ」ニ向テ能代護衛航行中「ダバオ」

港口激湍伏在ノ報ニ依リ警戒中(逆)電探ニ依リ激△電波ヲ正

艦首ニ捕捉、爆雷員ヲ配置ニ就ケ更ニ航行中 1200頃沖波左舷約千

米ノ距離ニ漁望鏡發見反航、艦長ノ沈着勇斷直ニ左四頭反轉攻

撃ニ轉ズ、ソノ間激△ハ漁望鏡ヲ更ニ水面ニ出シ遂ニ其ノ魚雷

發射ト共ニ司令塔約一米迄浮上セリ發射雷數六本、間髪ヲ入レ



沖波ハ村點附近ニ殺到三回ニ直リ二十數個ノ爆雷攻撃ヲ加フ  
油湧出多量 見事沈

能代ハ魚雷發見ノ沖波緊急信號ニ依リ直ニ轉舵、完全ニ大本魚  
雷三本ゾツニ沈マレ乍ラ巧妙ニ之ヲ回避セリ

發見者 舞鏡 普賢 二曹 山則光雄 (舞鏡等ノ生死不明)

電探探知者 普賢 二曹 西本 ? (生死不明)

タウイタウイ着

2100 頃「タウイタウイ」泊地外對磯風(磯波?)ト共ニ警戒中

ノ谷風(艦長中佐池田周作先任、水雷長6期瀧谷悌大尉)敵

雷ノ發聲ヲ受ケ沈没、當時當直將校河谷大尉月朗、彼ノ首ニ

依レバ「左舷艦跡」ノ報告ト同時ニ「取舵一杯」ヲ令セタル

モ號令ノ終ラザル中ニ一番砲塔左舷ニ魚雷命中前部切斷ト共

ニ急速ニ沈没、身ハ海中ニホリ出サズ夏中那ニ魚雷命中殆

ト轟沈狀況ナリキ、艦沈降中搭載爆雷炸裂ニ依リ水中爆傷ヲ

受ケタルモノ相當多致、彼モ亦其ノ一人ニシテ沖波ニ救助後約  
二時間ニシテ腹痛ヲ訴ヘ106朝他艦ニ移乗ノ際ハ顔面滄白前鏡  
ニテ苦シ相ニ見エタリ、同日遂ニ絶命

沖波ハ應急出勤艦トシテ直ニ出勤、谷風艦長以下約23乗員救  
助歸投

マツクアーサーノ指揮スル「ニューギニア」北岸傳セノ便政部  
隊ノ西進ニ依リ「ニューギニア」基地破壊「ピアク」島航空基  
地ノ重要性加ハリ其ノ絶對確保ヲ必要トスルニ至リ「あ」號作戦  
ニ使用ヘル「マリヤナ」基地詳カ<sup>B-24</sup>ニ依ル「ピアク」カタノ攻撃  
ニオビヤカサレ且比島南部ノ「あ」號部隊<sup>B-24</sup>襲撃基地カ<sup>B-24</sup>ノ攻  
撃偵察圈内ニ入ルニ遂ニ大和、武蔵等ノ<sup>B-24</sup>ヲ基幹トスル「ビヤ  
ク」島砲臺逆上陸強行作戦ガ計畫サレ18司令官宇垣總中將ヲ指  
揮官トスル「ピアク」島作戦部隊編成サレ沖波モ之ニ參加(當  
時ノ情況判斷ハ中部太平洋ノ「ニミツツ」攻勢ガ遂ニ過レ「ニ

ニーギニアノマツクアーサー部隊ニ連ニ一殺ヲ加ヘントレ  
 パラオ方面ニ航空兵力(LAP)ノ主力ガ集中サレ「サイベン」  
 方面ハヤヤ手薄ナリシガ「る」號作戦失敗ノ重大原因ナリ  
 頃「タウイタウイ」發前進基地「ハルマヘラ」島「バチヤン」  
 泊地ニ向フ  
 400 神波ハ速射55約五〇〇米ニ改修望遠鏡發見。緊急信號ヲ共ニ  
 左同順塔遠望鏡ニ向首之ニ殺到セリ。改ムハ大和。成戦等ニ  
 氣ヲ奪ハレシモノノ如ク(或ハ係結トノ機同戦闘ヲ策セルカ)  
 沖波ガ至近距離ニ到ル迄五回程望遠鏡ヲ上テ、神波ハ其ノ都度  
 小量針路修正常ニ之ヲ正備ニ保チ肉迫。敵機ハ約400ニ至リ望  
 鏡ヲコチラニ向ケタルモ一米以上露出セシ灰白色ノ望遠鏡ヲ引  
 込ムヤ否ヤ窮辰ノ勢猛然ノ反撃ニ出テ魚雷二本發射之ハ沖波右  
 舷約七米ヲ平行ニ通過沖波ハ直ニ三回ニ亘ル爆雷被撃ヲ加ヘ確  
 實ニ撃沈丁度上空ニ飛來セシ直衝機ヨリ一機今も爆雷投射見察

ノ電ノ受ケ昨夜ノ谷風ノ仇ヲ討ツ

發見者 舞鶴鎮 上曹 大瀧貞三

艦長補佐 高信

(比島沖海戦ニ機銃員トシテ参加戦死)  
(九號機送信ニテ20.1.5マニラ脱出成功其後生死不明)

14/6 「ハルマ、ラ」 「バチャン」 泊地着 作戰準備各々一隻宛大

發搭載

17/6 夕刻出港(マノクワリ向ク)豫定ノ處「あ」號作戰發動ノ令

ニ依リ「ピアク」島作戰中止

「あ」號艦隊ニ復歸、出港「あ」號部隊トノ合同ヲ策ス

「あ」號作戰「マリアナ」海上機動戦團ニ参加(第十一群旗

艦38) 金剛、輪型陣中央艦空母千代田、第十一群(前衛部隊、

外輪艦金剛、榛名、摩耶、島海他(αX6)

艦攻撃前日ヨリ投身セシ一水兵ヲ救助ス

艦攻撃當日本隊ト前衛(第一部隊ト第二部隊ト呼稱セテ相ク

記憶スレトノ連絡不充分第一部隊攻撃部隊へ前衛ノ對空砲火ヲ受ケ前途ニ暗影ヲ投グ

第十一群中味方戰別鑑定ヲ爲シ砲火ヲ開カザリシハ沖波ノミ

總攻撃夕刻敵<sup>14</sup> 艦<sup>15</sup>ノ攻撃ヲ受ケ<sup>16</sup>三〇〇〇米ニテ發見二

〇〇〇米ヨリ河原<sup>17</sup>開始、敵<sup>18</sup>ハ約三千ノ高度ヨリ千代田

ニ對シ急降下機<sup>19</sup>輪型陣ノ集中砲火ニ依リ四機程度墜、沖

波一機墜、第十一群被<sup>20</sup>害<sup>21</sup>、千代田、榛名、摩耶何レモ墜

機、當日敵<sup>22</sup> KDB 攻撃ヲ企圖セシ我が<sup>23</sup> KDB 航空部隊ハ敵<sup>24</sup> 10ノ爲大部

分墜サレ燃料ギリギリニシテ大官島基地ニ達セルモ大官島

上空既ニ敵<sup>25</sup> 10ノ制<sup>26</sup>壓<sup>27</sup>下ニアリ又茲ニ於テ憤死セルモノ多數、

水偵隊モ燃料不足ト技術不充分ノ爲海上不時着セルモノ多數

加フルニ口大鳳以下空母三隻一擧ニ敵<sup>28</sup> Δノ雷<sup>29</sup>撃<sup>30</sup>ヲ受ケ沈没

長官ハ羽黒ニ將旗移揚セルモ航空作戦ノ敗色歴然タルモノアリ

	25	26	30	3	7	8	18
	6	6	6	7	7	7	7

遂ニサイパン附近行動中ノ改<sup>KDB</sup>ニ夜戦ヲ以テ突撃ヲ企圖サレシ  
 モ各艦ノ燃料殘余既ニ幾何モナク隨伴油槽船モ大部分敵機ノ爲ニ  
 沈メラレ今ハ之迄ト斷念沖繩ニ向フ  
 沖繩着  
 沖繩發、九州南方ヨリ桂島及佐世保ニ向フ、岸波、沖波ハ宿毛着  
 後厚耶爾爾橫須賀ニ向フ  
 橫須賀着、整備待機、「あ」號作戦終結  
 橫須賀發、吳回航 5.7 吳着  
 吳方面<sup>B-25</sup>二機侵入 被害ナシ  
 吳發、佐伯灣、沖波中城灣ヲ經テ昭南ニ向フ  
 昭南ヲレター軍港着  
 爾後昭南及「リンガ」泊地ニ於テ訓練整備入渠一回（南港）  
 九月中旬「ボルネオ」「ブルネー」發昭南ニ向フ、九隻船團護衛  
 ノ爲「リンガ」出撃

17  
10

護衛期満一週満、任務完遂、護衛部隊 四隻

捷號作戦發動 1YB ノ一艦トシテ「リンガ」泊地出撃「ボルネオ」

ブルネー」泊地經由「レイテ」島ニ向フ 22 10 1YB ハ「ブルネー」發

ノ翌日夜敵△ニ發見サレ進駐ヲ受ク、敵△潜在面突破ノ徹底的手

段ヲカキ艦隊ノテカヘ敵ノ既ニ知ル處ナル、翌朝(23 10)〇六三

〇頃口愛宕、高雄艦△ノ攻撃ヲ受ケ愛宕沈没、高雄航行不能更ニ

増速中軍那被雷沈没、作戦ノ前途暗惨タルモアリ 口ハ岸波ニ

移揚 1S 司令官一時艦隊ノ指揮ヲトリ次デ口ヲ大和ニ移揚行動續行

(後日此ノ敵艦ハ高雄護衛ニ當リシ朝霜長波及ミノ攻撃ニ依リ「

バラワン」島北岸ニ坐礁航海日誌等入手セリ)

「バラワン」北方「ミンドロ」島南方ヲ經テ 24 10 「シブヤン」島

ニ入ル(計畫第二航路)

△比島沖海戦第一日 24 10 快晴

第一部隊(1S 大和、武蔵、長門、基幹、沖波ハ第一部隊ニ屬ス)

ノグループ及第二部隊（38 金剛、榛名、基幹）ノグループニ分レ  
 進航中一〇〇頃ヨリ日没時迄六回ニ亘ル敵艦載機群ノ攻撃ヲ  
 受テ敵機ハ高度三〇〇〇米ヨリ急降下巧ニ波状運動ヲ畫キツツ  
 グ敵機ノ攻撃目標ハ主トシテ第一部隊ノ大型艦ニ集中襲撃ノ位  
 ニアリシ勢逐次ニトリテハ遑退スル敵機ハ絶好ノ射撃目標、毎回  
 ノ攻撃機數、戰爆管約百機第一日計五百機來襲（P6F SB20 TBF）  
 沖波戦果 第一次二機、第二次三機、第三次三機、第四次一機、  
 第五次一機計一〇機（主砲ニヨルモノ一機他ハ全部二五耗機銃）  
 （沖波ノ三〇〇米以内ニ墜落セシモノ五機内一機ハ二名落下傘降  
 下一機ハ歸至近ニ迫リ自爆体當カト思ヘレタルモ落尾八十米ニ墜  
 落爆彈一發擲行）  
 被害、重傷一名 港ノマタ水長  
 此ノ第一日ノ敵攻撃ニ依リ大和、武藏、長門、妙高等相當被害ヲ  
 リ



妙高ハ「ゾルネー」ニ武蔵ハ「バラワン」

島ニ清籍護衛ノ下ニ引返ス途中武蔵遂ニ沈没、此ノ戦闘ニ依リ「

レイテ」島突入ノ時機ヲ失セルハ明白ナリキ又「スリガオ」海峽

突入部隊トノ連絡モ出来ザルコトトナリヌ

夜間「サンベルナルチ」海峽突破太平洋ニ出ヅ

△比島沖海戦第二日 23日 午前雨、午後晴風波ヤヤアリ「スリガオ」

水道入口「モノホン」島(？)ノ45°50'ノ位置ニ於テ艦隊變針突入

針際ニ入ル直前110°方向ニ敵KDヲ發見、發見艦矢矧(↑)丁度雨ノ

晴レシ寸時ニシテ東方ニ空母群ヲ發見ス、艦隊ハ直ニ攻撃主力艦

砲戦開始08及10直ニ攻撃ニ移ル、大和初弾大巡洋艦沈(發見距離二

五〇〇〇米主力艦砲戦二二〇〇〇米位)敵KDハ盛ニSOSヲ發信シツ

ツ煙幕展開全速退避並ニ飛行機發艦ニ移ル、沖波ハ雲中ヨリ來襲

スル敵機ト交戦シツツ艦隊態勢ヲトルタメ占位中敵艦逐艦五隻ノ

近接スルヲ發見之ト砲戦ヲ交フ、距離八五〇〇米2Sd單從隊ニテ砲

戰、一隻墜沈

當日ノ午前ノ戰團ハ雨中而モ水上戰團並ニ對空戰團ノ交互連續ニシテ砲術長トシテハ充分ニ戰勢觀察ノ余裕ナカリシモ敵艦逐艦ノ爆發沈没確認セシモノ三隻他ニ炎上中ノモノ二、三隻認めタリ  
沖波飛行機一機墜墜

敵部隊ハ無ニ視界外ニ去リ敵機ノ來襲回數漸ク盛トナリ我艦隊ハ「レイテ」突入ノ爲艦隊集結ヲ令セラルル時ニ被害艦馬津、筑摩、敵艦ノ雷撃ニ等、尙此ノ時炎上中ノモノ更ニ砲撃セントシアリシ  
鈴谷ハ敵艦三機ノ攻撃ヲ受テ發射管附近至近彈ノ爲大炎、魚雷誘爆、航行不能沖波ハ鈴谷警戒ヲ命ゼラ、茲ニ艦隊十分離單艦行動トナル（艦隊ハ燃料不足、敵艦南北ヨリノ挾撃、「レイテ」突入時機失機等ノ理由及艦長官ヨリノ命ニ依リ反轉「バラワン」經由昭南ニ向フ）鈴谷沈没後約六時間ニ亘ル救助作業ヲナス、艦長以下四五〇名救助當日波、風吹集ニツノカ人員約四軒ノ海面ニ及

且敵機ノ空襲下ニ救助ニテ思ハレ様ニナラス神波艦長ノ武士ノ面  
目彼等ヲ見捨テテハ相立チ申サズノ信念ニ長時間ノ困難ナル救助  
敢行日没時ニ到リ鈴谷艦長トノ話合ノ上作業打切り遊味進及  
救助作業中五〇機以上ノ敵飛行機撃滅同往復其ノ機ニ敵機宛身離  
神波攻撃一五〇〇頃三機爆装高度二五〇〇ニテ左舷ヲ命中敵機墜  
落彈火依リ前部兩舷被火衝撃トシ浸水少量戦死七名。重傷十名。  
戦果ナシ

神波等共ニ鈴谷救助ニ當リテ利根カヲタテテ一隻ニ指標期間中中  
尉ノ特艇員ヲ奮闘自覚シキモノアリ

「サンペルナ」海峽突破、夜間「シブナ」海峽入ル

▲比島沖海戦第三日(26)

此ノ日ノ戦闘ハ神波トシチ單艦戦闘ニテ最も激烈ヲ極メシ戦闘ニ  
シテ四十機以上ノ敵機ヲ撃滅スルコト三回配置ニ就テラ令スル下實ニ  
三十数回機銃員ノ大半ヲ失フ被管相當大ナリシモ記憶錯雜明確ナ  
ラス

○八〇〇第一回四十枚機ノ戦、爆、管ノ攻撃ヲ受ク  
 一〇〇〇第二回攻撃ヲ受ク至近彈ニ依リ左舷後部ノ大破穴及小  
 破穴數知レズ、浸水最約一〇〇トシ舵機危殆ニヒンシ機被一時停  
 止、主砲三番砲總員火傷一柳澤水長ノ奮戰ニ依リ稍火ノ沖波機銃  
 員ノ被害多ク鈴谷、利根ノ乗員ノ積極協力勇戰ニ依リ難關突破成  
 功

（利根乗員十一名中戦死四名（田中大尉連）  
 敵艦機四機ハ艦長ノ見事ナル操縦ニテ危機一髪ノ間ニ回避成功  
 ス

戦果要略三機

一四〇〇「ミンドロ」島南方「セミララ」島海岸近クニ早霧深  
 泊中ナルヲ發見當時早霧被燒ノ爲一番砲ヨリ前部勿論燃料海水混  
 入ノ爲使用不能大部殘額僅ニ五トン沖波モ九五トン位ナリシニ艦  
 長ハ之ニ對シ三〇噸ノ補給ヲ計畫横付シ約十二、三トンノ補給終

リレ時設艦艇十数機ノ急襲ヲ受ケ兩艦ノ離レ終ラザルニ初彈落下  
 之ト交戦結果被害ナシ 日没時「バラワン」島「コロシ」着船給  
 (早瀬ハ其ノ後「セキララ」島ニ坐礁司令以下「マニラ」ニ歸リタル  
 モ前任將校約田中十秋大尉ハ三十数名ヲ指揮之ニ殘リタリ其ノ  
 後OKPノ優柔ヲ先見ノ明ナキ爲遂ニ之ガ所置ナク米軍ノ「ミッド」  
 島上陸機ナリ遂ニ放出出來ザリシト聞ク)

熊野護衛「エロン」島出港  
 熊野等被攻撃

多號作戦、玉船四(近衛師團庄約一五〇〇)護衛「レイテ」島  
 「オルモック」ニ向フ ISd 沖波、沖越、ノ他海防艦・沖波へ浸水百  
 噸ノ艦作戦ニ参加

約六機來襲捕獲機ト交戦 P-38 二機墜落味方三機墜落、一八〇〇投錨 P-38

30  
10

27  
10

1  
11

5 6 5 4  
11 11 11 11

2  
11

掃蕩開始 二四時開始掃蕩二當時「カタロマン」艦ヲ主トシテ  
 ○○機集中セリ、約一五分ニテ「オルモツク」上陸ニ進ス、艦右  
 直衝機ハ陸軍七、一五機常時在空中セルモP-38ニ依リ全クホシロ  
 サル

P-38ノ襲撃、掃射

一五〇〇「モロタイ」ヲ基地トスルP-38二四機ノ攻撃ヲ受ク、船頭  
 一機被害、更ニP-38ノ襲撃ニ依リ艦ニ沈没セルモ掃蕩ヲ完了  
 機ニ被害アリ、沖波被害ナシ、揚落成功、一九〇〇「オルモツク」  
 發

マニラ着

「マニラ」地区敵艦艇機五〇〇機ノ空襲ヲ受ク

多號作戦待機中ノISd 2Sdノ主力「マニラ」港内ニ集結船團モ多數沈  
 泊セルモ敵機ハ主目標ヲ「ニコラス」飛行場及防波堤外ノ行動艦

6  
11

7  
11

13  
11

船ニ向ケ防波堤内ノ艦船ニハ攻撃ヲ殆ド加ヘズ堤外ニテ之ノ敵ヲ  
 迎撃セシモノ那智、沖波他ニ勝濟艦一商船一、〇七三〇頃六〇機  
 來襲、一〇〇〇百機來襲、一二〇〇四〇機、一四三〇八〇機來襲  
 此ノ日ノ戦闘ハ快晴ナレドモ雲低ク敵機ハ之ヲ利用シ急降下ス、  
 激烈ヲ極メシ戦闘ヲ續ケ沖波機銃員ノ被害漸大、被爆ノ爲電灯消  
 ヲ、機被一時停止主砲人力等最後ノ空襲ニ依リ艦長重傷一六〇〇  
 那智救助ニ向ヒ間モナク來着セル病院船ト協力、全部救助、沖波  
 戦死十數名、大輕傷多數、艦長入院  
 翌日ノ被攻撃ヲ避ケ出港、戦果詳誌二機  
 夕刻入港

修理

8 11 23d

「レイテ」ニ向フ出港

「マニラ」地區空襲、五〇〇機

〇八〇〇第一回約八〇機來襲



及港内艦船攻撃

〇九三〇第二回

八〇機來襲、沖波被爆

SB20

二機撃墜

14  
11

戦果ナシ

16  
11

約八回ノ空襲アリ對島機関ヲ行フモ戦果ナシ、砲術長以下約三〇名

31  
12

10 砲術長轉勤、砲術長代理島村大尉、31 砲術員退去

沖波戦果

機銃 一隻 砲術

機銃 三隻 機銃

飛行機 二十機 機銃



三校不確食

◎ p18

● 別項トシテ別記シアルモノ

19 10 米軍「レイテ」島一角「タクロバン」ニ上陸  
0 捷一號作戰計畫大要

(4) <sup>3</sup>/<sub>10</sub> 基地航空部隊ノ總攻撃

(ロ) <sup>24</sup>/<sub>10</sub> IKDBノ索敵作戰

(ハ) <sup>25</sup>/<sub>10</sub> <sup>1</sup>/<sub>1</sub> YB <sup>2</sup>/<sub>2</sub> YBノ「レイテ」泊地襲込ミ作戰並ニ逆上陸作戰、逆上陸陸軍

兵力三ヶ大隊

○ 提號作戦ノ意義及其ノ影響

○ 提號作戦失敗ノ諸因

1801

○ 移リユク海上作戦兵力ハノ  
尾ノ尖光

1802

14